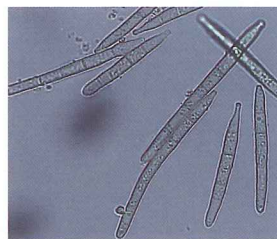


農業技術センターニュース

目 次			
トルコギキョウ斑点病に対する有効薬剤の探索	… 1	水稲‘よさ恋美人’における収穫適期の判定指標	… 4
促成栽培シシトウの養分吸収特性	… 2	オリエンタル系ユリにおける炭酸ガス施用効果	… 5
キルパー由来の活性成分メチルイソチオシアネート (MITC) のロビンネダニに対する殺虫活性	… 3	シキミに寄生するフシダニの発生状況	… 6

トルコギキョウ斑点病に対する有効薬剤の探索



左:写真1 斑点病発生株
中:写真2 病斑の拡大
右:写真3 病原菌の胞子

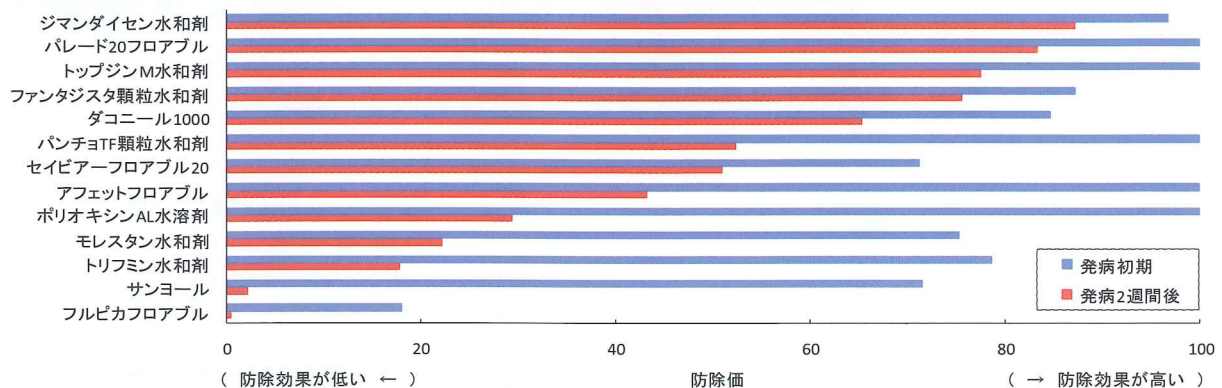


図 花き類に適用のある殺菌剤のトルコギキョウ斑点病に対する防除効果(発病初期および発病2週間後)
注) 防除価は無処理区に対する防除効果の程度(0~100)を示す。試験は5回に分けて行い、調査はそれぞれ発病初期(病原菌接種の13~21日後)および発病2週間後(同27~35日後)に実施した。

トルコギキョウ斑点病は、葉に灰～黒褐色のすす状の病斑を生じる病害(写真1、2)で、高知県では平成28年に初めて発生が確認されました。発病すると商品価値が低下し、ひどい場合には出荷不能となることから大きな問題となっていますが、有効な防除対策は明らかになっていません。そこで、花き類に適用のある殺菌剤を対象に、本病に対する予防的効果を検討しました。

殺菌剤を散布したトルコギキョウの苗に病原菌の胞子(写真3)を接種し、その後の発病葉率の推移を調査しました。その結果、

供試した13剤中12剤で発病初期の防除価は70以上と高く、発病抑制効果が確認できました。さらに、発病2週間後の調査でも高い防除効果を示す剤がいくつか見られ、斑点病の防除対策に有効活用できる可能性が示されました(図)。

今後も、防除効果の高い薬剤の探索を行うとともに、温湿度等の発病好適条件を明らかにし、効果的な防除体系の確立に取り組みます。

(病理担当 岡美佐子 088-863-4915)